



今井小だより

第8号

令和3年

10月29日

青梅市立今井小学校



今井小HP

心地よい音の環境

校長 神尾 健彦

新型コロナウイルスの陽性者数が減少傾向で、様々な制限が解除されつつある状況です。学校でも、体育や家庭科、校外学習などこれまで中止していた活動を再開させています。音楽会も開催します。学校で音楽会の計画を始めたのが夏休み前でした。学校として、価値ある教育活動をできる範囲で実施するという方針を進めていくことにいたしました。感染状況があまり改善しない状況でも、確実に子供ができることで構成していこうと、先生方は様々なアイデアを出しました。まず、リコーダーや鍵盤ハーモニカなど飛沫が飛びやすい楽器を使わないようにするというので、学校にある楽器で合奏できるようにクラス単位での発表としました。また同様に飛沫の飛散防止を考え、歌唱はなしとしました。保護者の鑑賞は当初、運動会と同様各家庭1名と考えていましたが、現在の感染状況とクラスごとでの発表ということで、各家庭2名と現時点では変更しました。音楽会に向けて子供はクラスごとに合奏の練習に励んでいます。スローガンは、「ひとつの音に思いをのせて」です。一人一人がひとつひとつの音にどのような思いをのせて演奏するのでしょうか。ぜひ、ご鑑賞いただき、大きな拍手を送ってください。

さて、私たちの身の回りには音楽も含めて様々な音であふれています。なかには道路を走る大型車の音、真上を飛ぶ飛行機の音、工事現場の音などいつまでも続くとイライラしたり落ち着かなくなるような音もあります。一方美しい音楽や楽しいリズム、川のせせらぎなどが和む音もあります。先日、4年生以上を対象におこなった音楽鑑賞教室のオーケストラの音も感動を与えてくれました。人間だけでなく、畜産農家では牛にクラシックを聴かせることで、生乳をたくさん出るようにしたり、良い肉質になるようにしたりという取り組みをしていると聞いたこともあります。



音楽鑑賞教室

心地よい音を聞くと心が落ち着き、騒音とを感じる音を聞くと心がささくれだちそこから抜け出したいくなります。ただ、難しいのは、同じ音でもその感じ方は人によって、場合によって異なるということです。保育園から聞こえてくる元気な子供の声でほのぼのとした気持ちになる人もいれば、うるさいと感じる人もいるというのはニュースで時折聞かれます。子供が家で楽器を鳴らしたときに「がんばってるな」と思えるときと「静かにしてほしいな」と思えるときがあるのではないのでしょうか。

これは私たちが子供にかける言葉にも同じことが言えるのかもしれませんが。「がんばれ」「もっとできるよね」という言葉は励ましの言葉になることもあれば、ある子供にとっては「こんなに頑張っているのに」「もうこれ以上はつらいよ」という追い詰める言葉となってしまうことも考えられます。気持ちが落ち着く言葉、やる気があふれて前向きになる言葉というのは、すべての人に当てはまるものではなく、一人一人違ったり、時と場合によって変わったりするものなのだろうと思います。だからこそ、教師も保護者も一人一人を見つめ、その時の子供の状況を考えながら、心地よい言葉の環境を作れるようにしていかなければならないといえるでしょう。